

『ウォータージェット』が『長持ち』につながる

SDGsとの接点から見えた自社事業の新たなPRポイント



管理本部 主任
風間 亜希子さま

代表取締役
竹之内 英さま

技術開発本部長
大津 芳永さま

日本で初めてマンションの排水管洗浄分野に進出する等、『ウォータージェット』の先駆者として、ビルや住宅等の配管洗浄、高速道路やトンネル等の建造物メンテナンスを通して生活環境の向上に貢献しています。



フジクス株式会社

創 業：昭和44年(1969年)
所 在 地：神奈川県川崎市川崎区貝塚1-8-2
事 業 内 容：ウォータージェット工法による業務全般、
リフォーム、成分分析、物品販売業務
代表取締役：竹之内 英
従 業 員 数：150名

経営全般

生産・サービス管理

PR / 新たな顧客・取引層の獲得

社会課題

道路やトンネルといった高度経済成長期に作られた様々な建築物の老朽化による剥落を防止するために、従来は脆弱部をブレーカーで破碎処理していたため、粉塵が発生したり、かえって傷めたりといった問題が発生していました。また、ビルや商業施設では省エネ化の流れを受け、現在設置されているトイレの大半は節水仕様となったため、流れる水量が以前の3分の1ほどになり、流しきれなかった尿に含まれるカルシウムが滞留して詰まりや悪臭が発生、配管の短寿命化を引き起こしていました。

SDGs導入に向けた視点

SDGsに取り組み始めた当初はボランティア等の社会貢献活動を行っていましたが、**それでは長続きしないことに気づきました。**そこで、自社の事業とSDGsがリンクする部分はないか、そもそも自社は何のために事業を行っているのかを改めて考え直しました。

SDGsの活用・取組

川崎市と神奈川県のSDGs認証制度に登録し、『2030年までに年間12万キロのCO2を削減する』と宣言し、『地球環境改善集団』というコンセプトを掲げました。また、社内にSDGsの委員会を発足し、SDGs目標のリスト化を行いました。



結果として、自社の事業がSDGsに貢献することが分かりました。コンクリート構造物、鋼構造物の塗膜の除去を水で行う『ウォータージェット』は、脆弱部だけをメンテナンスできるため、道路等の建築物の長寿命化につながります。

また、ウォータージェットによる排水管の洗浄を応用した、次亜塩素酸水を排水管に流す『管洗浄プラス』も、配管を交換せず洗浄することで、製造・取替工程で発生するCO2を抑制できるだけでなく、次亜塩素酸水により雑菌の繁殖を抑え、トイレ等の衛生環境を向上させます。

経営への効果

『ウォータージェット』等により削減できたCO2量を数値化し、相当する杉の植林本数をホームページや営業資料に掲載してPRすることで、自社のSDGsに貢献する取組に付加価値をプラスし、受注が増加しました。また、就活生に向け環境問題も含めた企業説明をした結果、**自社の価値観にマッチした学生からの問い合わせが増加しました。**

SDGsを活用したい企業へのメッセージ



『管洗浄プラス』
施工の様子

SDGsは社会支援や寄付のイメージが強いですが、**既存の事業や新しい事業とSDGsを結び付け、付加価値をつけることが重要**だと思っています。また、SDGsに関わる人の認識を合わせ、その上でSDGsの17目標のうち何番に該当するのか、またその活動が自社の成長とリンクし有意義なものになっているか、を意識すると、効果的なSDGs活用になると思います。